

ソマリア沖海賊に 自衛隊を派遣?!

ソマリア沖派兵は強引すぎる

政府は間もなく現行自衛隊法82条の「海上警備行動」を根拠に、東アフリカ・ソマリア沖に海上自衛隊を派遣するという。本来、海賊問題は海上保安庁の仕事だ。また、自衛隊法82条が想定したのは「専守防衛」の範囲で、遠くソマリア沖など考えられていないのではないか。国会での議論もないまま、民意も問うことなしに、政府の判断だけで派兵してしまうようなことが許されて良いものだろうか。

ソマリアの海賊

そもそもソマリア沖「海賊」とは、「朝日新聞」11月15日付によれば、「みんな漁師だった。政府が機能しなくなり、外国漁船が魚を取り尽くした。ごみも捨てる。我々も仕事を失ったので、昨年からは海軍の代わりに始めた。海賊ではない。アフリカー豊かなソマリアの海を守り、問題のある船を逮捕して罰金を取っている。ソマリア有志海兵隊(SVM)という名前もある」とある。

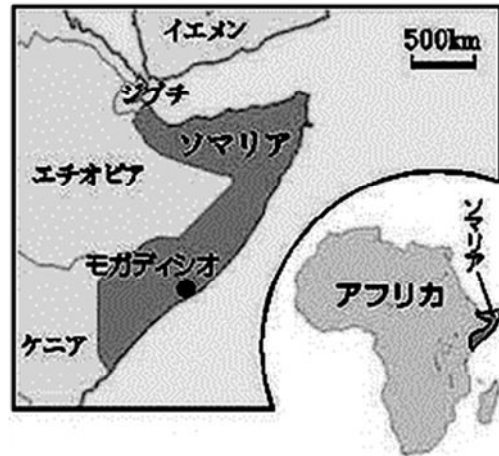
民生の安定こそ急務

平和憲法を持つ日本の取るべき態度は、列強の軍事介入に加担することではない。アフリカ諸国の和平努力に協力し、沿岸諸国の自主的な努力に協力し、この地域の貧困と破壊を食い止めるための、あらゆる可能な平和的援助の努力をすることではないだろうか。

小川の言葉で「憲法九条」を

Eさんの素案

日本のおら一達は まちがったことはしねー。
皆んなが平和に成ることを願ってる。
昔の国がやったような戦争は、絶対にやらねー。
外国で争いがあっても 絶対に加わってはなんねー。
根本的なことをよーく考えて行動する。



～私の戦争体験～

東京大空襲の傷跡をたずねて

新井喜代美(腰越)

「東京大空襲の傷跡をたどる会」

昨年 11月6日、生協さいたまの職員OBによる九条の会主催で、「東京大空襲の傷跡をたどる会」に参加しました。案内は「台東九条の会」の会員さんです。台東九条の会では「浅草戦跡マップ」をつくり、言問橋、浅草寺を中心に1時間の案内をボランティアとして活動しているそうです。

死者 88,793名、

東京大空襲は3月10日午前0時15分空襲警報が発令、2時37分までの正味142分に死者88,793名、傷者40,918名、罹災者1,008,005名、焼失した家屋等被害は268,358軒におよび、その被害は江東区、浅草区、深川区、本所区、城東区の5区は全滅に近い大被害に及んだと言われます。大空襲は午前0時20分頃、浅草側一帯に先ず焼夷弾が落とされ、次いで吾妻長馬道、日本堤が瞬時のうちに火の海となり、焼け出された人は水に近い言問橋へと殺到しました。

言問橋へ

浅草側からまぼ7分遅れて向島方面に焼夷弾が雨のように落とされました。向島一帯は次々に炎に包まれ、この向島から非難する人々も言問橋へ殺到しました。この言問橋での台東側の死者は7千人から1万人と言われます。言問橋の両岸に、今も残る黒く焼けただけだれた旧橋の石柱。(右の写真)浅草寺の境内には、数本のイチョウの大樹の洞の中に今も63年前に焼けただけだれた炭の後を手にとることが出来ます。



私は紙一重で助かった

ちなみに私事ですが、昭和19年12月末まで私は家族と共に、浅草区蔵前2丁目に住んでいました。12月30日、夜中の空襲に防空壕から出て母に手を引かれ神田に近い二長町(今は地名が残っていないので正しい文字は不明)方面に逃れました。母は妹を背負い両手に私と弟の手を引いて、着の身着のままでした。私は紙一重で助かったのかも知れません。今はすっかり整備された墨田公園、観光地として賑わっている浅草周辺にもふだん気づかず見過ごしている戦争の傷跡や、東京大空襲などで亡くなった遺族や平和を願う人々が建立した記念碑が今も数多く残り、平和の尊さを訴えかけているようです。

この国はどこへ行こうとしているのか

76歳を迎えた永六輔さん(ラジオ司会者)がこのほど毎日新聞夕刊(1/30)で標題のようなインタビュー記事を掲載していました。一部分ですが元文のまま転載させていただきます。

投票マシーン

この国は
どこへ行こうと
しているのか

明治維新は終わっていない

「実は明治維新は終わっていないんじゃないか。女学生のセーラー服は、海軍水兵の軍服。男子の詰め襟だって、元は軍服です。それを誰も不思議に思わない。小泉(純一郎元首相)も、引退するけど、せがれに後を継がせる。どこが改革? そんなの、江戸時代じゃない。明治で新しくなり、第二次世界大戦で世の中が変わり、世界の経済大国になった。そうやって、どんどん世の中変わっていると思うだろうけれど、本当は全然変わっていない。」

永さんの目には、政治は未熟だし近代化された国家には見えない。その論理の背景にはいまの政治への憤りがあるようだ。

「憲法99条を守る会」

永さんは、戦争放棄を定めた憲法99条を守る会に賛同する一方で、「99条を守る会」を個人的につくっている。99条は、憲法尊重擁護の義務を定めている。

「天皇又(また)は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」

しかし、現実には、自民党議員をはじめとする政治家は、守るどころか、憲法、特に9条を変えようと必死だ。

憲法条文を見ると、政府などの権力を縛り、国民の権利を守ろうとする姿勢が一貫して流れている。



投稿 ハタチ になりました

どうしてこんな時代に・・・

私はこの春ハタチになった。(写真は成人式) ひとりの大人として社会的に認められるようになったわけである。「大人って何なんだろう?」大人とは自分の人生に責任を持つことだ。今までは親の保護の下に守られていたけれど、大人になったらもう誰も守ってくれない。自分の身は自分で守るしかないのである。私がこれから飛び込む大人の世界は、まさに未曾有(みぞう)の危機の中にある。世界的に広がる経済危機のあおりを受けて、日本でも派遣切りや内定取り消しなど、はっきり言ってお先真っ暗状態である。どうしてこんな時代に大人になってしまったのだろうか・・・。

アメリカ国民の力

しかし、嘆いているだけではダメだ。大人は自分の人生に責任を持たなくてはならないのだ。この大不況の中で、アメリカはオバマという新しい大統領を選んだ。彼の政治力はまだ未知数だ。しかし、確かにオバマには新しいアメリカ、新しい世界を作る可能性があるかもしれない。アメリカは、この先の見えない暗闇の中で、オバマというひとつの光に希望を託した。大統領選に対するアメリカ国民の関心はとても高いし、オバマの人気はものすごい。それはただのブームかもしれないし、オバマにはそこまでの力はないかもしれない。けれど、自分たちの国の未来を諦めないで、この危機から抜け出そうとするアメリカ国民の力には感心する。

諦める大人にはなりたくない

一方、日本はどうだろうか。不況だと嘆くばかりで、自分たちの力で国を変えていこうという気概が感じられない。「結局何も変わらない」と最初から諦めて、「政治には何も期待しない」などと言っている大人たちは、大人としての責任を果たしているのだろうか。こんな時代だからこそ、何かを変えようと立ち上がって行動するべきなのではないか。「九条の会」はそのひとつかもしれない。嘆いているだけでは、何も変わらない。私は、少なくとも自分と自分の大切な人たちが幸せに暮らしていけるように、自分に出来ることはしなくてはならないと思っている。具体的に何をすればいいかはわからないけれど、何もしないうちから諦める大人にはなりたくないと思う

とりあえず、選挙には行こうと・・・。

今年成人式をむかえた町内の方から、投稿を頂きました。感謝いたします。あなたたちがこれから生きていく社会は、確かにそんなにバラ色ではありません。しかし、私たちは、あなたたちと一緒にこの日本の未来を確かなものにしていきたいと願っています。どうか「諦めないで」ちよっぴり力を貸して下さい。一緒に頑張りましょう。



政治がしっかりしていれば・・・

永さんは、「憲法は国民には何も厳しいことは言っていないの。国民は安心して生きていければ、何もいなくていいんです」と話した後、「政治がしっかりしていれば」と、付け加えた。でも、政治家はしっかりしていませんよなね?

「していません」と、きっぱり。

その政治家を選んだのは国民……。

「そうです」

「投票して誰かを選ぶんじゃないかって、投票して誰かを落とす選挙にすべきだと思う。選ばれて政治家になっちゃったヤツはしょうがないけど、『こいつだけは許せない』っていう人は落とされちゃう。そこまで徹底しないとダメだよ」

◇えい・ろくすけ

1933年、東京都生まれ。ラジオパーソナリティ。放送作家、作詞家、司会者、エッセイスト、語り手などの幅広い活動で知られる。「こんにちは赤ちゃん」など数々のヒット曲を手がけた。(割愛と小見出しは編集部…記事全文は当会HPからご覧ください。)

